

子育て支援の推進

アナ： 「市長が語る 2024 三島」第9回の今日は、「子育て支援の推進」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： こども家庭庁では、昨年4月の発足以降「こどもまんなか社会」の実現に向け、様々な取り組みが進められているようですが、三島市においては、子育て支援についてどのような取り組みをされていらっしゃるのでしょうか。

市長： はい。

まず、令和5年から開始いたしました「出産・子育て応援事業」を引き続き行っております。

これは、全ての妊産婦の方を対象に、地区担当の保健師が、妊娠期から継続して相談支援に当たるとともに、国の交付金を活用し、出産準備や子育てに係る経済的な負担を軽減するため、合計10万円の応援金をお渡しするというものです。また、この4月からは、低所得世帯の妊婦の方への初回産科受診料の一部補助も開始いたしました。

ちなみに、子育てに関する経済的支援としては、第1子が誕生した時に1万円、第2子の時に5万円、第3子からは15万円のお祝い金をお渡しする「みしまっ子すくすく祝い金」も好評をいただいております。

アナ： 地区担当の保健師さんに相談にのってもらえて、経済的支援も充実しているのは大変心強いですね。

ところで、出産後の慣れない育児で睡眠不足や不安が強くなり、産後うつになる方もいらっしゃると思います。出産後のケアに関する支援はいかがでしょうか。

市長： 産後1年以内の支援を必要とするすべての方が、産科医療機関等で助産師によるケアを受けることができる産後ケア事業がございます。

居宅訪問以外にも、ショートステイやデイケアのメニューがありまして、お母さんの休息やリフレッシュを目的とした利用も可能です。

三島市では、対象となる全ての方への利用料の減免を行っておりますので、お役立ていただければ幸いです。

アナ： 出産後の大変な時期にこうしたサポートが受けられるのは、お母さん方にとって本当に助かるサービスだと思います。

このほかにも、葉酸サプリメントの無料配布を開始したとお聞きしました。

市長： 4月1日以降に婚姻届や妊娠届を提出された方のうち希望された方を対象に保健センターでお渡ししています。

葉酸は、胎児の先天的な障害の発症リスクを低下させ、妊娠中の貧血を

予防するため、特に妊娠初期に必要な栄養素と言われておりますので、サプリメントの配布により、健やかな妊娠・出産へとつながることを願っております。

なお、その他のサポートといたしまして、妊婦健診につきましても、今年度から、公費助成を受けられる回数をこれまでの14回から16回に増やしております。

アナ： 葉酸は妊娠中に必要と言われていたのは知っていましたが、自分でサプリメントを購入して摂取するところまではなかなか難しいと思いますので、このような無料配布は摂取の後押しになるのではないのでしょうか。

さて、三島市では、昨年10月にこども家庭センターを設置したとのことですが、こども家庭センターはどのようなことを行っているのでしょうか。

市長： こども家庭センターでは、妊産婦や乳幼児の相談を受ける母子保健と、支援を必要とする子育て家庭の相談を受ける児童福祉とを一体化し、すべての妊産婦、子ども・子育て家庭の悩みや困りごとについて、社会福祉士や保健師、子育てコンシェルジュなどの専門職が、親身になって、切れ目のない相談・支援を行っているところでございます。

法令により、本年4月に各自治体に設置することが努力義務となりましたが、三島市では、半年前倒しして昨年10月に設置し、早い段階から機能の充実に努めてまいりました。

アナ： 継続して相談できる場所が存在するのはとても安心ですね。

市長： はい。

今年度は更に、Zoomを活用してオンラインで相談できる体制も整えまして、来庁することが難しいご家庭にも、気軽に相談していただけるよう準備を進めております。

アナ： ICTも活用したセンターということで、更に相談しやすくなりますね。豊岡市長、本日はどうもありがとうございました。

市長： ありがとうございました。